

セックスレスがさらに増加。婚姻関係にある人では36.5%

これまでにセックスをしたことがある者(1,468人)に、この1ヶ月間のセックス回数を聞いたところ、「1回」15.4%、「2回」11.2%、「3回」8.8%、「4回」6.5%、「5回以上」12.3%となっています。一方、「この1ヶ月間は、セックス(性交渉)をしなかった」は39.9%という結果でした。日本性科学会はセックスレスを「特別な事情がないにもかかわらず、カップルの合意した性交あるいはセクシュアルコンタクトが1ヶ月間以上ないこと」と定義していますが、「1ヶ月間以上セックスがない」というセックスレスが実に4割を占めることになります。

婚姻関係にある回答者(初婚・再婚)でも36.5%が該当しており、年齢階級別には婚姻関係にある40歳以上では4割以上とさらに高率となっています。

2001年に朝日新聞社がインターネットで調査した「夫婦1000人に聞く」でのセックスレス割合は28.0%、「男女の生活と意識に関する調査」2004年、2006年がそれぞれ31.9%、34.6%ということから婚姻関係にあるカップルのセックスレス化が一段と進行していることが窺えます。

婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由を尋ねると、「仕事に疲れている」が第一位で18.8%(男性24.5%、女性15.1%)、「出産後何となく」18.1%(男性13.6%、女性21.0%)、「面倒くさい」15.1%(男性9.3%、女性18.8%)などが目立っています。

婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由

(北村邦夫：「第4回男女の生活と意識に関する調査」2008)

	全体	男性	女性
n=	304	118	186
仕事で疲れている	18.8	24.6	15.1
出産後何となく	18.1	13.6	21.0
面倒くさい	15.1	9.3	18.8
セックスより楽しいことがある	6.3	2.5	8.6
家族(肉親)のように思えるから	5.3	6.8	4.3
相手がいない	3.3	5.9	1.6
家が狭い	3.3	3.4	3.2
妊娠することへの不安が強い	1.6	1.7	1.6
セックスに際して痛みがある	1.0	0.0	1.6
勃起障害に対する不安がある	0.7	1.7	0.0
相手の一方的なセックスに不満ある	0.3	0.0	0.5
その他	24.0	28.0	21.5
不明	2.3	2.5	2.2

低用量ピル「知っている」女性は71.8%、緊急避妊法「聞いたことがある」女性は30.2%。緊急避妊法を一度でも使ったことのある女性はそのうちの5.6%。

女性のうち、低用量ピル(経口避妊薬)のことを「よく知っている」(13.0%)、「ある程度知っている」(58.8%)という者を合わせると、3人に2人は『知っている』と答えています。

また、「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」のいずれかの言葉を「聞いたことがある」(28.5%)者はほぼ3人に1人、「聞いたことがない」(67.4%)者は7割を割っていました。性別には、「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」のいずれかの言葉を「聞いたことがある」という者は男性(26.4%)、女性(30.2%)で、女性の3割近くが「聞いたことがある」と答えています。過去2回の結果を追ってみますと、全体では04年(20.8%)、06年(24.3%)、08年(28.5%)と明らかな増加傾向が認められます。

「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」のいずれかの言葉を聞いたことがあるという者に、いずれかに該当する方法を利用したことがあるかどうかを聞いたところ、「利用したことがある」は全体では6.2%(男性7.0%、女性5.6%)となっています。これは国民全体の4.1%に相当し15歳から49歳の人口から推計すると約100万人が使用した計算になります。

低用量ピル、「既に使っている」が3.0%

回答者の女性に低用量ピルの利用意向を聞いたところ、「既に使っている」(3.0%)、「現在は使っていないが、ぜひ使いたい」(9.6%)、「将来は使いたい、今は使えない」(6.6%)であり、19.2%の女性が利用意向を明らかにしています。これに対して、「使いたくない」は71.7%を占めています。15歳から49歳の生殖可能年齢の女性人口2,742万人(2008年10月1日)で推計しますと、「将来は使いたい、今は使えない」までを加えると527万5千人に相当することになります。

わが国の女性の人工妊娠中絶経験者は14.9%、リピーターは25.4%。

これまでに人工妊娠中絶の手術を受けたことが「ある」という女性は14.9%。女性だけに特定すると、本調査からは16~19歳では人工妊娠中絶の手術の経験者はなく、20歳代の年齢層でも「人工妊娠中絶の手術を受けたことがある」と答えた者は5%前後ですが、30~34歳(13.6%)、35~39歳(18.4%)、45歳以上(28.1%)と回答しています。さらに、中絶のリピーターは女性の25.4%にも及んでいます。

これまでに自分または自分の相手が人工妊娠中絶手術を受けたことがある者(172人)に、過去1年間の人工妊娠中絶手術の経験聞いたところ、「1回」(11.0%)で、2回以上受けたものを合わせた「過去1年間に人工妊娠中絶手術を受けた」者は12.8%となっていました。

中絶手術を受けることになった理由、女性の第一位は「相手と結婚していないので産めない」

これまでに人工妊娠中絶手術を受けたことがある女性(122人)に、最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由を尋ねたところ、「相手と結婚していないので、産めない」(27.9%)という者が最も多く、次いで「経済的な余裕がない」(15.6%)、「相手との将来を描けないから」(12.3%)、「自分の仕事・学業を中断したくない」(6.6%)と続いています。

最初の人工妊娠中絶を受けることを決めた気持ち:「胎児に対して申し訳ない気持ち」「自分を責める気持ち」が大半。

これまでに人工妊娠中絶手術を受けたことがある女性(122人)に、最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めたときの気持ちを聞いたところ、「胎児に対して申し訳ない気持ち」だったという者が45.1%で最も多く、次いで「自分を責める気持ち」(16.4%)、「自分の人生において必要な選択である」(13.1%)、「手術への不安」(7.4%)などの順になっています。「胎児に対して申し訳ない気持ち」と答えた男性は28.3%で女性の方が約17ポイント近く多くなっています。

この一年間の避妊、「いつも実行している」「避妊したり、しなかったりしている」は58.4%。避妊法は84.7%がコンドーム、低用量ピルは4.6%で前回に比べて3.8ポイント増加。

これまでにセックス(性交渉)をしたことのある者(1,267人)に、この一年間の避妊の状況を聞いたところ、「いつも避妊している」と答えたのは39.2%、「避妊をしたり、しなかったりしている」者は19.2%、「避妊はしない」という者は17.6%でした。このうち、「いつも避妊している」と「避妊したり、しなかったりしている」と回答した者(740人)に、主な避妊方法を聞くと、男性用コンドーム(84.7%)、膣外射精(性交中絶)13.9%、「飲む避妊法(ピル)」4.6%、「オギノ式」(2.6%)、「不妊手術(女性)」1.8%、「基礎体温法」(1.1%)、「子宮内避妊具(IUD/IUS)」0.4%などの順でした。

毎日新聞社人口問題調査会が行ってきた「全国家族計画世論調査」は既婚女性を対象としていますので、本調査も既婚(初婚・既婚)女性に限ってまとめました。

わが国既婚女性の避妊法の選択（1952年～2008年）

	現在実行している人を対象に													現在と前に実行している人を対象に			
	本研究				25回	24回	23回	22回	21回	20回	19回	15回	10回	5回	1回		
	2008	2006	2004	2002	2000	1998	1996	1994	1992	1990	1988	1980	1970	1960	1952		
男性用コンドーム	79.6	78.5	67.1	70.7	75.3	77.8	77.2	77.7	75.3	73.9	76.8	81.1	68.1	58.3	35.6		
女性用コンドーム	0.4	0.4	0.5	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
性交中絶／膈外射精	16.7	17.8	17.3	17.5	26.6	7.4	9.6	7.1	7.6	6.5	4.9	5.2	6.9	11.5	12.7		
オギノ式定期禁欲法	3.6	3.3	3.0	3.6	6.5	8.4	8.1	7.1	9.2	7.3	6.6	23.1	33.9	40.4	27.4		
女性不妊手術	2.9	2.2	2.7	3.9	5.3	4.6	5.3	5.8	5.0	7.4	5.8	2.9	-	5.4	-		
基礎体温法	1.5	4.4	4.6	2.5	9.8	8.2	8.9	6.8	7.3	8.0	9.7	-	-	6.1	-		
IUD	1.1	1.5	1.6	2.1	2.7	3.1	3.8	3.7	4.9	4.7	5.3	8.3	7.2	-	-		
洗浄法	-	-	-	-	0.4	1.1	0.5	0.5	0.9	1.2	0.6	1.6	1.0	2.1	4.9		
ピル	2.2	1.1	1.1	0.7	1.5	1.1	1.3	0.6	1.3	1.0	1.7	3.2	1.7	-	-		
男性不妊手術	1.1	0.4	0.3	0.4	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	2.4	1.6	1.1	-	0.9	-		
避妊薬（錠剤／ゼリー／フィルム）	0.4	0.4	0.3	-	0.5	0.8	0.5	0.8	1.2	1.0	0.5	-	-	-	-		
ベッサリー	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.1	0.3	-	1.1	4.3	7.4	7.8		
ゼリー、フィルム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	6.4	13.3	15.4		
錠剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	7.8	7.2	14.2		
スポンジ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	1.5	-		
無回答	-	-	-	-	2.4	2.6	2.6	3.1	2.2	2.5	2.7	1.2	-	4.2	10.7		
その他（無回答）	2.5	3	14.0	7.9	-	-	-	-	-	-	-	1.2	3.8	1.1	4.3		
不妊手術	*4.0	*2.6	*3.0	*4.3	*6.4	*5.8	*6.5	*7.0	*6.2	*9.8	*7.4	*4.0	5.4	-	-		

（*は再掲。1回から25回までは毎日新聞社人口問題調査会：全国家統計調査世論調査、2002・2004・2006・2008年データは『男女の生活と意識に関する調査』結果）

性交開始年齢を早めていくのは、(中学生の頃)「朝食を食べない」「父母に対する尊敬の気持ちが薄い」「親と話をする機会が少ない」など。

今回の調査では、各種調査項目について性交開始年齢との数量クロス集計を試みています。その結果、以下の点で統計的に有意な差が明らかとなっています。性交経験がある回答者の平均初交年齢は19.0歳。

- 中学生の頃「家庭が楽しくない」と性交開始年齢が早くなる。
楽しかった(19.1歳)、まあ楽しかった(19.2歳)、あまり楽しくなかった(18.6歳)、楽しなかった(18.4歳)。
 - 中学生の頃、普段「ほとんど話さない」と性交開始年齢が早くなる。
よく話をした(19.1歳)、時々話をした(19.1歳)、ほとんど話をしなかった(18.1歳)、まったく話をしなかった(19.0歳)。
 - 中学生の頃、「朝食をたべない」と性交開始年齢が早くなる。
毎日食べた(19.4歳)、だいたい食べた(18.3歳)、あまり食べなかった(18.1歳)、食べなかった(17.5歳)。
 - 母親を「嫌い、うっとうしい」と思っていると性交開始年齢が早くなる。
「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」(19.0歳)、「自分を守ってくれる」(19.7歳)、「嫌い、うっとうしい」(16.0歳)。
 - 父親を「嫌い、うっとうしい」と思っていると性交開始年齢が早くなる。
「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」(19.2歳)、「自分を守ってくれる」(18.8歳)、「嫌い、うっとうしい」(18.6歳)。
- 以上からは、父親よりも母親に対する評価が低い方が性交開始年齢を早めてしまうことがわかります。
- 自傷行為の経験があると性交開始年齢が早くなる。

何回もある（17.6歳）、1度だけある（17.6歳）、したことはないが思ったことはある（18.9歳）、したことも思ったこともない（19.1歳）

中学生の頃、「家庭が楽しかったか」と性交開始年齢

（北村邦夫：「第4回男女の生活と意識に関する調査」2008）

	件数	平均 (歳)	分散	標準偏差
全体(不明を含む)	1,129	19.0	9.7	3.1
楽しかった	298	19.1	8.6	2.9
まあ楽しかった	544	19.2	10.5	3.2
あまり楽しくなかった	236	18.6	7.4	2.7
楽しくなかった	49	18.4	17.2	4.1

中学生の頃「朝食をたべたか」と性交開始年齢

（北村邦夫：「第4回男女の生活と意識に関する調査」2008）

	件数	平均 (歳)	分散	標準偏差
全体(不明を含む)	1,129	19.0	9.7	3.1
毎日食べた	770	19.4	10.5	3.2
だいたい食べた	190	18.3	7.3	2.7
あまり食べなかった	117	18.1	7.5	2.7
食べなかった	49	17.5	5.0	2.2

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

氏名	論文タイトル	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
主任研究者 武谷雄二	全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究	武谷雄二	平成18年度総括研究報告書	平成18年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）研究「望まない妊娠、全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」	東京	2007年	392頁
主任研究者 武谷雄二、分担研究者 北村邦夫・中村好一他	第3回男女の生活と意識に関する調査報告書	北村邦夫	第3回男女の生活と意識に関する調査報告書	平成18年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）研究「望まない妊娠、全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」	東京	2007年	142頁
主任研究者 武谷雄二	全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究	武谷雄二	平成19年度総括研究報告書	平成19年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）研究「望まない妊娠、全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」	東京	2008年	318頁
主任研究者 武谷雄二、分担研究者 北村邦夫	United Nations' Abortion Policies	北村邦夫	国連「人工妊娠中絶に関する政策・世界の情勢」	平成19年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）研究「望まない妊娠、全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」	東京	2008年	246頁
分担研究者 北村邦夫、研究協力者 西田良子	世界の十代の避妊、妊娠、中絶、出産等に関する現状調査	北村邦夫	十代の望まない妊娠防止対策に関する研究	平成19年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）研究「望まない妊娠、全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」	東京	2008年	88頁

主任研究者 武谷雄二、分 担研究者 北村邦夫・中 村好一他	第4回男女の 生活と意識に 関する調査報 告書	北村邦夫	第4回男女 の生活と意 識に関する 調査報告書	平成20年度厚生労働科学研究 費補助金（子ども家庭総合研究 事業）研究「望まない妊娠、全 国的実態調査に基づいた人工 妊娠中絶の減少に向けた包括 的研究」	東京	2008年	148頁
分担研究者 安達 知子	確実な避妊の ためのQ&A	安達知子	中絶を繰り返さないた めの避妊指 導の実践書	平成20年度厚生労働科学研究 費補助金（子ども家庭総合研究 事業）研究「望まない妊娠、全 国的実態調査に基づいた人工 妊娠中絶の減少に向けた包括 的研究」	東京	2009年	14頁
北村邦夫	家族計画	北村邦夫	改訂6版母 子保健マニ ュアル（編集 高野陽・柳川 洋・加藤忠 明）	南山堂	東京	2008	29-34
北村邦夫、	避妊法（受胎調 節）	北村邦夫	今日の治療 指針2008（山 口徹・北原光 夫・福井次矢 総編集）	医学書院、	東京	2008	924-9 25
北村邦夫	OCを根付かせ るための戦略	北村邦夫	女性のプラ イマリ・ケア を担う医療 者のための OC実践セミ ナー講演資 料集	日本家族計画協会、	東京	2008	3-36

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tetsuya Hirata, Yutaka Osuga, Kahori Hamasaki, Yasushi Hirota, Emi Nose, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Toshiki Tajima, Akiko Hasegawa, Tetsu Yano, Yuji Taketani.	Expression of Toll-like receptors 2, 3, 4, and 9 genes in the human endometrium during the menstrual cycle.	J Reprod Immunol.			(in press)
Takemura Y., Osuga Y., Koga K., Tajima T., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Selective increase in high molecular weight adiponectin concentration in serum of women with preeclampsia.	J Reprod Immunol	73(1)	60-5	2007
Yasushi Hirota, Yutaka Osuga, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Tetsuya Hirata, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Emi Nose, Tetsu Yano, Osamu Tsutsumi, Yuji Taketani.	The expression and possible roles of chemokine CXCL11 and its receptor CXCR3 in the human endometrium.	J Immunol.	177 (12)	8813-2 1	2006
Koga K., Takemura Y., Osuga Y., Yoshino O., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Recurrence of ovarian endometrioma after laparoscopic excision.	Hum Reprod	21(8)	2171-2 174	2006
Takemura Y., Osuga Y., Yamauchi T., Kobayashi M., Harada M., Hirata T., Morimoto C., Hirota Y., Yoshino O., Koga K., Yano T., Kadowaki T., Taketani Y.	Expression of adiponectin receptors and its possible implication in the human endometrium. Endocrinology.	Endocrinology	147(7)	3203-3 210	2006
Yoshino O., Osuga Y., Koga K., Hirota Y., Hirata T., Ruimeng X., Na L., Yano T., Tsutsumi O., Taketani Y.	FR 167653, a p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor, suppresses the development of endometriosis in a murine model.	J Reprod Immunol.	72 (1-2)	85-93	2006
Takeuchi T., Tsutsumi O., Ikezaki Y., Kamei Y., Osuga Y., Fujiwara T., Takai Y., Momoeda M., Yano T., Taketani Y.	Elevated serum bisphenol A levels under hyperandrogenic conditions may be caused by decreased UDP-glucuronosyltransferase activity.	Endocr J.	53(4)	485-49 1	2006
Minaguchi T., Nakagawa S., Takazawa Y., Nei T., Horie K., Fujiwara T., Osuga Y., Yasugi T., Kugu K., Yano T., Yoshikawa H., Taketani Y.	Combined phospho-Akt and PTEN expressions associated with post-treatment hysterectomy after conservative progestin therapy in complex atypical hyperplasia and stage Ia, G1 adenocarcinoma of the endometrium.	Cancer Lett.	248(1)	112-12 2	2007
北村邦夫・家坂清子・篠崎百合子・塚田訓子・松本和紀・村上雄太・吉野一枝	緊急避妊法に関する臨床的研究 (第2報) Yuzpevs vs. Levonorgestrel法.	日本産科婦人科学会雑誌	58(2)	681(S-533)P2-270	2006
北村邦夫	診療 緊急避妊法とその実際	産婦人科の実際	56(3)	493-49 8	2007
北村邦夫	知っておきたい用語の解説Emergency Contraception(EC)	小児科臨床	60(1)	51-56	2007
北村邦夫	若者たちの性が危ない～避妊と性感染症予防を考える～診療の現場から一避妊・中絶	母性衛生	47(1)	27-31	2007

Tetsuya Hirata, Yutaka Osuga, Kahori Hamasaki, Yasushi Hirota, Emi Nose, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Toshiki Tajima, Akiko Hasegawa, Tetsu Yano, Yuji Taketani.	Expression of Toll-like receptors 2, 3, 4, and 9 genes in the human endometrium during the menstrual cycle.	J Reprod Immunol.				(in press)
Takemura Y., Osuga Y., Koga K., Tajima T., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Selective increase in high molecular weight adiponectin concentration in serum of women with preeclampsia.	J Reprod Immunol	73(1)	60-5	2007	
Yasushi Hirota, Yutaka Osuga, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Tetsuya Hirata, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Emi Nose, Tetsu Yano, Osamu Tsutsumi, Yuji Taketani.	The expression and possible roles of chemokine CXCL11 and its receptor CXCR3 in the human endometrium.	J Immunol.	177 (12)	8813-21	2006	
Koga K., Takemura Y., Osuga Y., Yoshino O., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Recurrence of ovarian endometrioma after laparoscopic excision.	Hum Reprod	21(8)	2171-2174	2006	
Takemura Y., Osuga Y., Yamauchi T., Kobayashi M., Harada M., Hirata T., Morimoto C., Hirota Y., Yoshino O., Koga K., Yano T., Kadowaki T., Taketani Y.	Expression of adiponectin receptors and its possible implication in the human endometrium. Endocrinology.	Endocrinology	147(7)	3203-3210	2006	
Yoshino O., Osuga Y., Koga K., Hirota Y., Hirata T., Ruimeng X., Na L., Yano T., Tsutsumi O., Taketani Y.	FR 167653, a p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor, suppresses the development of endometriosis in a murine model.	J Reprod Immunol.	72 (1-2)	85-93	2006	
Takeuchi T., Tsutsumi O., Ikezuki Y., Kamei Y., Osuga Y., Fujiwara T., Takai Y., Momoeda M., Yano T., Taketani Y.	Elevated serum bisphenol A levels under hyperandrogenic conditions may be caused by decreased UDP-glucuronosyltransferase activity.	Endocr J.	53(4)	485-491	2006	
Minaguchi T., Nakagawa S., Takazawa Y., Nei T., Horie K., Fujiwara T., Osuga Y., Yasugi T., Kugu K., Yano T., Yoshikawa H., Taketani Y.	Combined phospho-Akt and PTEN expressions associated with post-treatment hysterectomy after conservative progestin therapy in complex atypical hyperplasia and stage Ia, G1 adenocarcinoma of the endometrium.	Cancer Lett.	248(1)	112-122	2007	
北村邦夫・家坂清子・篠崎百合子・塚田訓子・松本和紀・村上雄太・吉野一技	緊急避妊法に関する臨床的研究(第2報) Yuzpevs vs. Levonorgestrel法.	日本産科婦人科学会雑誌	58(2)	681(S-533)P2-270	2006	
北村邦夫	診療 緊急避妊法とその実際	産婦人科の実際	56(3)	493-498	2007	
北村邦夫	知っておきたい用語の解説Emergency Contraception(EC)	小児科臨床	60(1)	51-56	2007	
北村邦夫	若者たちの性が危ない～避妊と性感染症予防を考える～診療の現場から一避妊・中絶	母性衛生	47(1)	27-31	2007	
Tetsuya Hirata, Yutaka Osuga, Kahori Hamasaki, Yasushi Hirota, Emi Nose, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Toshiki Tajima, Akiko Hasegawa, Tetsu Yano, Yuji Taketani.	Expression of Toll-like receptors 2, 3, 4, and 9 genes in the human endometrium during the menstrual cycle.	J Reprod Immunol.				(in press)

Takemura Y., Osuga Y., Koga K., Tajima T., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Selective increase in high molecular weight adiponectin concentration in serum of women with preeclampsia.	J Reprod Immunol	73(1)	60-5	2007
Yasushi Hirota, Yutaka Osuga, Kaori Koga, Osamu Yoshino, Tetsuya Hirata, Chieko Morimoto, Miyuki Harada, Yuri Takemura, Emi Nose, Tetsu Yano, Osamu Tsutsumi, Yuji Taketani.	The expression and possible roles of chemokine CXCL11 and its receptor CXCR3 in the human endometrium.	J Immunol.	177 (12)	8813-2 1	2006
Koga K., Takemura Y., Osuga Y., Yoshino O., Hirota Y., Hirata T., Morimoto C., Harada M., Yano T., Taketani Y.	Recurrence of ovarian endometrioma after laparoscopic excision.	Hum Reprod	21(8)	2171-2 174	2006
Takemura Y., Osuga Y., Yamauchi T., Kobayashi M., Harada M., Hirata T., Morimoto C., Hirota Y., Yoshino O., Koga K., Yano T., Kadowaki T., Taketani Y.	Expression of adiponectin receptors and its possible implication in the human endometrium. Endocrinology.	Endocrinology	147(7)	3203-3 210	2006
Yoshino O., Osuga Y., Koga K., Hirota Y., Hirata T., Ruimeng X., Na L., Yano T., Tsutsumi O., Taketani Y.	FR 167653, a p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor, suppresses the development of endometriosis in a murine model.	J Reprod Immunol.	72 (1-2)	85-93	2006
Takeuchi T., Tsutsumi O., Ikezaki Y., Kamei Y., Osuga Y., Fujiwara T., Takai Y., Momoeda M., Yano T., Taketani Y.	Elevated serum bisphenol A levels under hyperandrogenic conditions may be caused by decreased UDP-glucuronosyltransferase activity.	Endocr J.	53(4)	485-49 1	2006
Minaguchi T., Nakagawa S., Takazawa Y., Nei T., Horie K., Fujiwara T., Osuga Y., Yasugi T., Kugu K., Yano T., Yoshikawa H., Taketani Y.	Combined phospho-Akt and PTEN expressions associated with post-treatment hysterectomy after conservative progestin therapy in complex atypical hyperplasia and stage Ia, G1 adenocarcinoma of the endometrium.	Cancer Lett..	248(1)	112-12 2	2007
北村邦夫・家坂清子・篠崎百合子・塚田訓子・松本和紀・村上雄太・吉野一枝	緊急避妊法に関する臨床的研究（第2報） Yuzpevs vs. Levonorgestrel法.	日本産科婦人科学会雑誌	58(2)	681(S- 533)P2 -270	2006
北村邦夫	診療 緊急避妊法とその実際	産婦人科の実際	56(3)	493-49 8	2007
北村邦夫	知っておきたい用語の解説Emergency Contraception(EC)	小児科臨床	60(1)	51-56	2007
北村邦夫	若者たちの性が危ない～避妊と性感染症予防を考える～診療の現場から一避妊・中絶	母性衛生	47(1)	27-31	2007
北村邦夫	日本におけるリプロダクティブ・ヘルスの現状	ジェンダー白書 6 女性と健康、		39-53	2008
北村邦夫.	緊急避妊法	産婦人科治療	96(2)	152-15 6	2008
北村邦夫	クリニカルカンファレンス（一般診療・その他）：2. OCと緊急避妊、4) 緊急避妊法	日本産科婦人科学会雑誌	59(9)	N-514- 518	2007
北村邦夫	産婦人科外来マニュアル [不妊・内分泌] 1 1. 緊急避妊法 (Emergency Contraception)	産科と婦人科	74(11)	1385-1 389	2007

北村邦夫	RU486	ホルモンと臨床	55(7)	109-113	2007
北村邦夫	「若者達の性が危ない～今後、期待される健康教育とは～」	京都母性衛生学会誌	15(1)	2-8	2007
北村邦夫	大きく変わりつつある治療法、性交後の避妊法の進歩	小児科内科	39(6)	827-829	2007
北村邦夫	特集 話題の薬物療法 2. 妊娠初期中絶とミフェプリストン	産科と婦人科	74(5)	515-521	2007
北村邦夫、	各領域の最新診療ガイドライン 低用量経口避妊薬	産婦人科の世界	59(4)	117-124	2007
北村邦夫	思春期の性行動と性差	産婦人科治療	94(4)	425-430	2007
北村邦夫	第3回男女の生活と意識に関する調査	現代性教育研究月報	25(5)	1-6	2007
北村邦夫	「第3回男女の生活と意識に関する調査」結果まとまる	家族と健康	4月1日号	4-6	2007
Takemura Y., Osuga Y., Yoshino O., Hasegawa A., Hirata T., Hirota Y., Nose E., Morimoto C., Harada M., Koga K., Tajima T., Yano T., Taketani Y.	Metformin suppresses interleukin (IL)-1beta-induced IL-8 production, aromatase activation, and proliferation of endometriotic stromal cells.	J Clin Endocrinol Metab.	92	3213-3218	2007
Hirota Y., Osuga Y., Nose E., Koga K., Yoshino O., Hirata T., Yano T., Tsutsumi O., Sakuma S., Muramatsu T., Taketani Y.	The presence of midkine and its possible implication in human ovarian follicles.	Am J Reprod Immunol.	58	367-373	2007
Hirata T., Osuga Y., Hamasaki K., Yoshino O., Ito M., Hasegawa A., Takemura Y., Hirota Y., Nose E., Morimoto C., Harada M., Koga K., Tajima T., Saito S., Yano T., Taketani Y.	Interleukin (IL)-17A Stimulates IL-8 Secretion, Cyclooxygenase-2 Expression, and Cell Proliferation of Endometriotic Stromal Cells.	Endocrinology	149	1260-1267	2008
Fu L., Osuga Y., Morimoto C., Hirata T., Hirota Y., Yano T., Taketani Y.	Dienogest inhibits BrdU uptake with G(0)/G(1) arrest in cultured endometriotic stromal cells.	Fertil Steril.			in press
Hasegawa A., Yoshino O., Osuga Y., Hirata T., Yano T., Taketani Y.	High soluble CD44 concentration in peritoneal fluid in endometriosis.	Fertil Steril.			in press
Osuga Y., Koga K., Hirata T., Hiroi H., Taketani Y.	A case of hydrosalpinx associated with the menstrual cycle.	Fertil Steril.			in press

Hiraizumi Y, Nishimura I, Ishii H, Tanaka N, Takeshita T, Sakuma Y, Kato M.	Rat GnRH Neurons Exhibit Large Conductance Voltage- and Ca(2+)-Activated K(+) (BK) Currents and Express BK Channel mRNAs.	J Physiol Sci	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2008
Kamoi S, Ohaki Y, Mori O, Kurose K, Fukunaga M, Takeshita T.	Serial histologic observation of endometrial adenocarcinoma treated with high-dose progestin until complete disappearance of carcinomatous foci-review of more than 25 biopsies from five patients.	Int J Gynecol Cancer.	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2008
Watanabe A, Yamamasu S, Shinagawa T, Suzuki Y, Miyake H, Takeshita T, Orimo H, Shimada T.	Prenatal genetic diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia.	J Nippon Med Sch.	74(1)	65-9	2007
Mine K, Katayama A, Matsumura T, Nishino T, Kuwabara Y, Ishikawa G, Murata T, Sawa R, Otsubo Y, Shin S, Takeshita T.	Proteome analysis of human placentae: pre-eclampsia versus normal pregnancy.	Placenta.	28(7):	676-87	2007
Mori M, Ishikawa G, Luo SS, Mishima T, Goto T, Robinson JM, Matsubara S, Takeshita T.	The cytotrophoblast layer of human chorionic villi becomes thinner but maintains its structural integrity during gestation	Biol Reprod.	76(1)	164-72	2007
黒瀬圭輔、竹下俊行	不妊診療-現在の課題と将来展望 不妊・不育の遺伝カウンセリング	臨床婦人科産科	Vol.61, No.12,	1478-1481	2007
可世木久幸、富山僚子、竹下俊行	生殖医学の新展開〔卵巢〕3.卵巢の加齢と活性酸素	産科と婦人科	Vol.74, No.12	1597-1601	2007
竹下俊行	産婦人科診療 Data Book 39.不育症	産婦人科の実際	Vol.56, No.11,	1793-1797	2007
磯崎太一、石川源、竹下俊行	常位胎盤早期剥離に関する検討-早期診断のために-	産婦人科の実際	Vol.56, No.9	1381-1390	2007
稲川智子、竹下俊行	不育症における第 XII 因子活性と臨床背景の検討	日本生殖医学会雑誌	Vol.52, No.4,	243-243	2007
里見操緒、竹下俊行	夫リンパ免疫療法後の続発性不妊に関する検討	Reprod Immunol Biol	Vol.21, No.2,	PageS 62	2007
竹下俊行	各領域の最新診療ガイドライン 不育症のガイドライン	産婦人科の世界	Vol.59, No.4,	299-308	2007

三宅秀彦, 山田隆, 高橋肇, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 磯崎太一, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行, 鈴木俊治	前置癒着胎盤に対する治療法としての modified cesarean hysterectomy	日本産婦人科・新生児血液学会誌	Vol.17 No.1	Page.S .15-S.1 6	2007
鈴木由美, 渡邊淳, 三宅秀彦, 島田隆, 西弥生, 峯克也, 石川源, 竹下俊行	選択的流産のフォローアップ・羊水検査で Pallister-Killian syndrome が認められた 1 例を通して	日本遺伝カウンセリング学会誌	Vol.28 No.1	Page.5 0-50	2007
渡辺晃紀・中村好一	我が国の人工妊娠中絶経験者の特性	第18回日本疫学会学術総会(1月25日)			2008
Hirota Y, Osuga Y, Hasegawa A, Kodama A, Tajima T, Hamasaki K, Koga K, Yoshino O, Hirata T, Harada M, Takemura Y, Yano T, Tsutsumi O, Taketani Y.	IL-1{beta} stimulates migration and survival of first trimester villous cytotrophoblast cells through endometrial epithelial cell-derived IL-8.	Endocrinology	150	350-356	2009
Osuga Y, Hirota Y, Taketani,	Basic and translational research on proteinase-activated receptors: proteinase-activated receptors in female reproductive tissues and endometriosis	Pharmacol Sci. Y. J	108	422-425	2008
Oya A, Nakai A, Miyake H, Kawabata I, Takeshita T.	Risk factors for peripartum blood transfusion in women with placenta previa: a retrospective analysis.	J Nippon Med Sch	75(3)	146-151	2008
里見操緒, 石川源, 米山剛一, 竹下俊行	人工妊娠中絶がその後の妊娠分娩転帰に与える影響	日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌	45 巻 2 号		2008
安達知子	子宮内膜症の痛みとQOL 子宮内膜症治療の最前線	臨床婦人科産科	62	1417-1421	2008
安達知子	若年者の原発性月経困難症 ホルモン療法マニュアル2008	産婦と婦人科	75(増刊号)	371-375	2008.
安達知子	思春期の月経困難症 特集 知っておきたい今日のホルモン療法	産婦人科治療	97	in press.	2009
北村邦夫	緊急避妊法	産婦人科治療	96(2)	152-156	2008
北村邦夫	質疑応答 産婦人科「緊急避妊ピルの作用機序と処方の実際」	日本医事新報	No. 442 3	95-96	2009
北村邦夫	質疑応答 産婦人科「避妊と中用量ピルの長期使用」	日本医事新報	No. 439 9	95-96	2008

北村邦夫	特集 思春期の諸問題 10. 避妊、	産科と婦人科	75(5)	587-595、	2008
北村邦夫	ユニークな少子化対策～男女間のコミュニケーションスキルの向上を	周産期医学	38(4)	457-462	2008
北村邦夫	緊急避妊法の原理と実際、	周産期医学	38(4)	497-501	2008
北村邦夫	特集 ホルモン療法—最近の話題—、緊急避妊法	産婦人科治療	96(2)	152-156	2008
北村邦夫	トピック 緊急避妊法、	子ども白書2008 (日本子どもを守る会編)		96	2008

新聞等

新聞名・インターネット	タイトル	発行年月日
サンケイスポーツ	自傷	平成 19 年 3 月 13 日
スポーツニッポン	自傷	平成 19 年 3 月 13 日
東京中日スポーツ	セックスレス	平成 19 年 3 月 13 日
夕刊フジ	セックスレス	平成 19 年 3 月 14 日
毎日新聞 (夕刊)	セックスレス	平成 19 年 3 月 13 日
朝日新聞 (夕刊)	セックスレス	平成 19 年 3 月 17 日
International Press	Casais "sem sexo"ja somam 34% no japao	平成 19 年 3 月 24 日
New York Times	Not Tonight ,Dear	平成 19 年 3 月 15 日
THE JAPAN TAIMES	Married couples having less sex	平成 19 年 3 月 17 日
TIME	Less Sex Behind Fewer Japan Births	平成 19 年 3 月 15 日
時事通信社 (インターネット)	セックスレス	平成 19 年 3 月 12 日
読売新聞	まさかの時に緊急避妊	平成 20 年 4 月 6 日
しんぶん赤旗	男女の生活と意識に関する調査結果から (上)	平成 20 年 4 月 13 日
しんぶん赤旗	男女の生活と意識に関する調査結果から (下)	平成 20 年 4 月 14 日
共同通信配信	ひと「十代の少女に必要な性を届けようと奮闘する」	平成 20 年 7 月 17 日
朝日新聞	あなたの安心—子どもの性に向き合う④	平成 20 年 7 月 19 日
朝日新聞	あなたの安心—子どもの性に向き合う④	平成 20 年 7 月 19 日
毎日新聞	望まぬ妊娠 SOS を	平成 20 年 8 月 2 日
宮崎日日新聞	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 30 日
琉球新聞 (夕刊)	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 8 日
山陰中央新報	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 10 日
千葉日報	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 7 日
山梨日日新聞	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 5 日
沖縄タイムス	増え続けるセックスレス夫婦	平成 20 年 12 月 3 日
讀賣新聞	夫婦 4 割セックスレス	平成 20 年 12 月 23 日
室蘭民報 (夕刊)	家庭の環境で性体験早まる 厚労科学研究班が全国調	平成 20 年 12 月 26 日

		査	
高知新聞（夕刊）		家庭の環境で性体験早まる 厚労科学研究班が全国調査	平成 20 年 12 月 26 日
熊本日日新聞		家庭の環境で性体験早まる 厚労科学研究班が全国調査	平成 20 年 12 月 26 日
ジョイセフニュース and Population	World	第 4 回男女の生活と性意識に関する調査結果から	平成 21 年 1 月号
毎日新聞		性交開始早い傾向	平成 21 年 1 月 11 日
朝日新聞		夫婦の 37% がセックスレス 厚労省研究班調査	平成 21 年 1 月 17 日
産経新聞		「産み終え世代」の油断	平成 21 年 3 月 14 日

（インターネットによるニュースなどは省略した）